

免疫学講座

【教育】	
1. 到達目標	生体防御機構としての免疫系の機能を理解し、さまざまな病態の理解に役立てられるような学生を育てる。
2. 現状説明	講義（座学）と自己学習を連携させ学習習熟度を上げるため、小テストを行うとともに、講義項目ごとに自学させたレポートを学生に提出させる。
3. 点検・評価	1年生2年生を通して計38コマの講義と3回の実習1回の演習を実施し、4回の小テストと4回のレポートを提出させた。
4. 目標・改善方策の達成度	習熟度の評価として2年生本試験の平均点（100点満点換算）と分散は71.21±14.3点であったことから、学習効果は得られている。昨年よりも平均点が上がり、分散が小さくなったことから、学生の理解度が上がり、成績の格差が小さくなったのではないかと考えられる。
【研究】	
1. 到達目標	疾患の治療法や予防法の開発に、免疫系の新規知見の重要性が増している。そこで、我々の独創的アプローチで新たな知見を見出し、免疫系の新規知見の蓄積に貢献したい。
2. 現状説明	週1回のデータカンファレンスを実施し、研究活動の進捗を互いに確認する。
3. 点検・評価	ほぼ毎週カンファレンスを行った。大学院生による報告と討論を促した。
4. 目標・改善方策の達成度	論文発表2、学会報告等を9回行い、研究実績の蓄積があった。大学院生による修士論文・学会報告などを補助し、研究進捗を促す。
【社会貢献】	
1. 到達目標	生体防御機構は、新興感染症・死亡要因・高齢化社会など、様々な社会的問題と関連している。そこで、我々の研究活動の報告や、免疫学分野の論文説明などを通して社会貢献したい。
2. 現状説明	研究成果をホームページに掲載する。論文の抄読会に学外の参加者が参加できるようにする。市民公開講演会を1回開催した。
3. 点検・評価	研究成果の一部をホームページに掲載した。論文の抄読会に学外の参加者が参加できるように、遠隔会議とした。SNSにて、抄読会の内容を発信した。
4. 目標・改善方策の達成度	研究成果の全てをホームページで掲載できていない。我々の研究の総説の公開などを実施したい。

免疫学講座

業績分類	査読	著者・筆者・発表者・発明者・受賞者 等	論題・章題・演題・学会賞名 等	掲載誌・書名・巻・号・頁・PMID 学会名・開催地・年月 等	Impact Factor ・ JIF QUARTILE (2021)	刊行状況	研究情報備考
1. 論文 (1)原著	査読有	Okamoto Y, Aung N Y, Tanaka M, Takeda Y, Takagi D, Igarashi W, Ishii K, Yamakawa M, Ono K	* Preferential Expression of Ca(2+)-Stimulable Adenylyl Cyclase III in the Supraventricular Area, including Arrhythmogenic Pulmonary Vein of the Rat Heart	Biomolecules. May 2022;12(5): 724. PMID: 35625651	IF = 6.064, Q2	E Only	B
1. 論文 (1)原著	査読有	Yurika Nakagawa-Saito, Shinichi Saitoh, Yuta Mitobe, Asuka Sugai, Keita Togashi, Shuhei Suzuki, Chifumi Kitanaka, Masashi Okada	* HDAC Class I Inhibitor Domatinostat Preferentially Targets Glioma Stem Cells over Their Differentiated Progeny	International Journal of Molecular Science. 2022;23(15):8084. PMID: 35897656	IF = 6.208, Q1	E Only	
2. 学会報告 (2)国内学会 iii 一般演題	査読有	Sabrina S, Kato T, Takeda Y, Naito S, Ito H, Takai Y, Ushijima M, Ozawa M, Narisawa T, Kannno H, Sakurai T, Tsuchiya N, Asao H	* MDSCs function analysis as a prediction of therapeutic effect for patients with advanced renal cell carcinoma.	The 81st Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, Yokohama: 29th September-1st October, 2022.			
2. 学会報告 (2)国内学会 iii 一般演題	査読有	Nagashima M, Takeda Y, Saitoh S, Sabrina S, Araki A, Asao H	Altered interaction between monocytes and platelets in preeclampsia	The 51th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology, Kumamoto: 7th - 9th December, 2022.			
2. 学会報告 (2)国内学会 iii 一般演題	査読有	Shinichi Saitoh, Yuji Takeda, Saima Sabrina, Mikako Nagashima, Hironobu Asao	5-aminolevulinic acid (5-ALA) synthesis deficient mice display an immune abnormality and reduced cytokine release	The 51th Annual Meeting of the Japanese Society for Immunology, Kumamoto: 7th - 9th December, 2022.			
2. 学会報告 (2)国内学会 iii 一般演題		渡邊 琳, 今 まりな, 武田裕司, 齊藤真一, 浅尾裕信, 奈良英利	筋再生過程における筋肉とマクロファージ間の IL-6作用機序	第45回日本分子生物学会, 千葉; 2022年12月2日			B
2. 学会報告 (2)国内学会 iii 一般演題		堀 晴香, 奥貫 舞, 渡邊 琳, 齊藤真一, 武田裕司, 浅尾裕信, 奈良英利	短期間の過剰運動が代謝に与える影響	第45回日本分子生物学会, 千葉; 2022年11月30日			B
2. 学会報告 (3)国内地方会 iii 一般演題		Sabrina S, Takeda Y, Kato T, Naito S, Ito H, Takai Y, Narisawa T, Kannno H, Sakurai T, Saitoh, S, Araki A, Tsuchiya N, Asao H	* The role of GPI-80 as a predicting marker of the therapeutic efficacy during immune checkpoint inhibition therapy in advanced renal cell carcinoma patients.	The 74th Tohoku Branch Meeting of the Japanese Society of Bacteriology, Fukushima: 22nd August 2022.			
2. 学会報告 (4)研究会 iii 一般演題		齊藤真一, 武田裕司, Koen van Wijk, 岡野聡, 中島修, 浅尾裕信	* 5-アミノレブリン酸合成不全マウスは炎症反応性が低下する	第30回山形分子生物学セミナー, 山形県山形市; 2022年11月26日			
2. 学会報告 (4)研究会 iii 一般演題		荒木明美, 齊藤真一, 武田裕司, Naing Ye Aung, Sabrina Saima, 永嶋美華子, 野内雄介, 浅尾裕信	* IL-21 isoform transgenicマウスは乳がんを自然発症する	山形大学医学部実験動物セミナー 第33回研究成果発表会, 山形; 2022年12月14日			
2. 学会報告 (5)その他		浅尾裕信	免疫の仕組み: 感染症とワクチン	上山市民公開講座, 上山市, 2022年11月29日			